

教えの庭から

今年の夏の暑さは、本当に異常です。温度が体温以上の38度となった場所もあります。なんとか早く30度以下の温度になつてほしいのですが、来年で降もこの暑さは続きそうです。そこで、来年から8月に実施する寺の行事を、6月か、7月の時期に移行しようと、相談しています。

この高い温度は、体で感じていますが、目に見えません。それは、どこにあるのでしょうか。物理が苦手な人には申し訳ないけれど、物理で説明します。温度とは、その物質を構成している分子の運動エネルギーの大きさを表します。空気分子(主に酸素と窒素)が日光の放射熱によって激しく熱運動すると、その場の温度が高くなります。その空気分子が、物体に当たる

異常な暑さに思う

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

ことにより、物体を構成している分子も激しく運動させられ、物体が人体であれば暑く感じるのです。この暑さを避けるためには、空気が、仏様の在りようとよく気が激しく熱運動していいに似ているのです。そう言う



挿絵 平尾恵郷

い場所(例えばクーラーなどにより空気分子の熱運動を抑えた場所)に身を置くと、目に见えない仏様は、宇宙間(仏教の場合は、それを十方の世界または法界といいますが、それは、地球表面を覆っていて、生

命を生かしています。さらに日光のおかげで地球上に生命体が生存しています。この空気と日光の在りようとよく似ているのです。そう言う

そのことは、観無量寿経の「如來の光明は、遍く十方の世界を照らして、念仏の衆生を攝取(仏が衆生を救うこと)して捨て給わず」とあります。つまり、空気が広く大気圏に存在しているように、如來様は十方の世界に光明としておられるのです。その光明は、一心に念仏する者のみが感得することができ、救いを得られるのです。

仏教の信者は、一心に念仏しているときに如來様の光明を感得するのですが、山田無文老師(1900-1988年)は、念仏ではなく、涼しい風から、如來様の光明を感得されまし。老師は、修行時代に結核に侵されて療養されていた時、たまたま濡れ縁で涼しい風に当たられました。その風は、空気の移動だとわかり、その空気により生かされていることがわかる」と、感動されました。そして、「大いなるものに抱かれ、今朝吹く風